

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02707

研究課題名（和文）論理的思考力・表現力育成のための幼小、教科間連携、国際比較によるカリキュラム開発

研究課題名（英文）Curriculum development through the preschools, elementary schools, and inter-subject cooperation, and international comparison to foster logical thinking and expression

研究代表者

河野 順子（JUNKO, KAWANO）

白百合女子大学・人間総合学部・教授

研究者番号：80380989

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：台湾の研究者、実践者による幼小連携研究との共同研究を継続し、これまでの日本での幼小連携研究の成果との比較研究を行い、統合的分析による、論理的思考力・表現力のカリキュラムの整備を図った。具体的には、論理的なコミュニケーション能力の育成のためのカリキュラム案の精緻化を図った。これまでの日本での論理的コミュニケーション能力の発達研究を基盤にしなが、台湾での調査、実験研究で得たデータを加えて、幼小の接続を重視した論理的なコミュニケーション能力育成のための研究の基盤づくりを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は以下である。○実践科学として参与観察・実験調査・検証に基づく新規のカリキュラムを提案する点、国際比較による保幼小の発達段階を加味した論理的コミュニケーション能力を中核に、論理的思考力・表現力の教科ごとの独自性と教科間のつながりを明らかにしたカリキュラム案を提案する点、大学研究者による教科間連携、国際比較、保・幼・小の連携、教育委員会との連携による新たな研究システムとして提案する点、実践と理論の統合を図る点など、新しい実践科学的な教科教育学の研究を目指していることにおいて学術的である

研究成果の概要（英文）：To improve the curriculum plan to cultivate logical thinking and expression through integrated analysis, we continued the joint research with the preschools and elementary schools cooperation research by Taiwanese researchers and practitioners, and conducted a comparative research with the results of our preschools and elementary schools cooperation research in Japan. Specifically, we aimed to refine the curriculum to foster logical communication skills. Based on the research on the development of logical communication ability in Japan so far, we added the data obtained from the survey and experimental research in Taiwan, and built the foundation for the research to develop logical communication ability with an emphasis on the conjunction of preschools and elementary schools.

研究分野：国語科教育

キーワード：論理的思考力 表現力 幼小連携 教科間連携 国際比較 カリキュラム開発

1. 研究開始当初の背景

現在、社会構成主義を基盤とした学びのパラダイムの大転換が起こっている教育界において社会構成主義の理論を基盤にした授業改革は教育における必至の課題である。2017 年度版学習指導要領の議論であるアクティブ・ラーニングの方法論による対話的な授業創りもこうした方向性の上に立脚した議論がなされている。こうした学習が深い学びとなるためには論理的思考力・表現力の育成が欠かせない。本研究では、社会構成主義を基盤としたカリキュラム開発と授業提案へ向けて、次の2点に着眼した研究を推進する。

第1点目に、ヴィゴツキ - 理論を背景とした他者との相互作用を重視した学びを通じた論理的思考力・表現力の育成を可能にするカリキュラム開発を継続し、具体的な授業開発を行う。第2点目に、社会文化的アプローチ（ジェームス・V/ワーチ（1995）らの理論を基盤とする）から解明することを目的とする。現在、従来の学習・発達に関する生物学的成熟ないし制約に基づいた個人に焦点化した捉え方の学習理論の限界が指摘されている。そこで、幼・小・中を貫くコミュニケーションの形成過程と論理言語発達を促す要因を究明し、本研究で特別支援学級での研究成果と台湾との連携研究の成果も加味する。

本研究で明らかにすることは以下の点である。(1)前科研で作成した幼・小・中に渡る論理的なコミュニケーション能力の発達系統案の精緻化を図る。(2)保幼・小に渡る論理的思考力・表現力を参与観察・実験調査を通して心理学や教育方法学の知見を取り入れながら、台湾の研究者・幼小現場との共同研究・比較研究を取り入れ、国際的視野から明らかにする。(3)(1)(2)で明らかになった論理的なコミュニケーション能力、論理的思考力・表現力を育成するためのカリキュラム案の精緻化とアクティブ・ラーニングによる授業開発を行う。(4)(1)(2)(3)の成果をもとにした教科間をつなぐ論理的思考力・表現力を明示したカリキュラムの提案。(5)(1)(2)(3)(4)を基盤にした保育園・幼稚園から中学3年生にかけての科学的なカリキュラム提案。

2. 研究の目的

新学習指導要領の議論が活発化し、アクティブ・ラーニングという方法論が注目されている。アクティブ・ラーニングの学びが形式化されては社会に生きる力の育成は難しい。ここには、思考力の育成が必要なのである。河野は平成23年度の科研から一貫して論理的思考力の育成を教科間連携・幼小中連携によって追究してきた。その結果、教科間を横断していく論理的思考力として根拠 理由付け 主張の三点を抽出し、その発達も明らかにしてきた。今回は特に幼小の連携を強化し、論理的思考力育成の発達をさらに明らかにすると共にアクティブ・ラーニングによる主体的・対話的な深い学びを実現する授業改革の視点を明確にした幼小・教科間連携による論理的思考力・表現力育成のカリキュラム案の整備と授業提案を行う。特に、PISA調査でも独自の成果をあげている台湾の幼小連携教育との比較研究から新たな知見を見出す。

3. 研究の方法

まず、1点目に、社会構成主義を基盤とした「学び」観による保幼小連携に力点を置いた論理的コミュニケーション能力育成のためのカリキュラム案の精緻化をすすめる。

2点目に、教科の独自性を盛り込んだアクティブ・ラーニングによる授業実現のための論理的思考力・表現力育成のための教材開発、授業デザインを盛り込んだ論理的思考力・表現力育成のための授業開発を行う。

3点目に、2点目の成果の台湾と日本との比較研究の成果を加味した統合的分析による論理的思考力・表現力の育成のための教科横断的カリキュラムの開発と提案を行う。

4点目に、1～3の成果を拡充し、児童生徒の発達段階を加味し、保幼小(中)を貫く論理的思考力・表現力育成のための総合的カリキュラムを開発し、提案する。

4. 研究成果

研究成果について、コミュニケーション能力の育成について幼稚園教育において、台湾の研究者との連携研究として、コミュニケーション能力の育成に成果をあげていると考えられる東京都H幼稚園、及び台湾のA幼稚園への参与観察を経て、次のような点が明らかとなった。

双方の教員への聞き取りで明らかになったことは、他者との関係性を築くことが難しい幼児が

増えたことが挙げられる。こうした幼児へ向けて二園ともに力が入れているのが他者との関係づくりを行いやすい活動や環境づくりがあげられる。

参与観察の結果、下記の写真ように教師のすぐ近くに集まって、関わり、自然に他者と関わりながら言葉が発せられる子どもが存在する一方、他者と関わることができず一人遊びに熱中する幼児の姿が両園ともに存在した。こうした幼児に対して、H幼稚園では、このように遠くから見るだけの関わり場をたくさん設ける工夫をしていた。こうした工夫は、すぐには他者と関わるできない幼児であっても、その様子を見守り、見つめるという環境のデザインに身を置くことによって、他者との関わり楽しさなどを見つめ、そこから自然に関りが生まれやすくなり、そのかわりからコミュニケーションが始まるというのである。



こうした他者と関わる場をたくさん、近く、遠く形成する環境づくりがコミュニケーション能力の育成に大きく関わっていた。

さらに、特筆すべきだった点は、他者と自己をつなぐために理由を伝え、聞き合う関係性を重視している点である。こうした理由を聞き合う関係が台湾の幼稚園においても同様に見られたのである。この理由付けの必要性について二園の教師たちが「自らが理由を述べることができることは自らの思いを相手に知ってほしいという相手に対する関係性を育て、相手の理由を聞くことによって、相手を理解していく。そこに自己と他者の関係性を強いものにしてコミュニケーション能力の育成に大きな役割をする。」と述べていることに注目したい。幼稚園教育においても論理的思考が他者との関係性をつなぐ大切な言葉として重視されていることがわかったことは大変大きな成果であった。

幼稚園における参与観察を通して、論理的思考力に関する思考を幼児は、動作化やオノマトペとして表現していることも明らかになった。こうした知見はカリキュラムにおいて、小学校の入門期の説明的文章の学習指導にもっと動作化などを用いて、実感としての学びを引き出すことの必要性を示唆してくれる。

さらに、今回の科研の研究において、東京都、神奈川県の小学校教育における特別支援学級、山梨県の中高等学校における特別支援学級においても根拠をもとに理由付けを生活体験から述べ合っ自分の考えを述べるという三点セットが障害を抱え、他者とのコミュニケーション能力の育成に課題を抱えている子どもたちの間に対話を引き越すことが確かめられたことは大きな成果であった。このとき、大切だったのは理由付けにそれぞれの児童・生徒の生活経験が引き出されていくことの大切である。生活経験がそれぞれの児童生徒の生活体験を引き起こし、そこに共感が引き出されて対話が生み出されていったのである。

また、アクティブ・ラーニングによる授業の可能性として国語科が取り組んできた「批評読みとその交流」について、小学校から中学校へ向けての授業の実績を積み重ねてきて、児童生徒の発達論のうえからカリキュラムの整備ができたことも成果として大きかった。

その概略は以下の通りである。

低学年 既有知識や経験と本文とのズレから疑問をもとに批評読みへと展開する。

中学年 論理展開についての批評読みへと展開する。

高学年・中学校 メタ認知の条件的知識を応用した批評読みへと展開する。

<参考文献>

河野順子(2016)入門期の説明的文章指導に関する一考察(その1) - 幼稚園における参与観察を通して - , 『白百合女子大学研究紀要』第52号,85 - 104

鶴田清司(2020)『教科の本質をふまえたコンピテンシーベースの国語科授業づくり』(明治図書)

古賀洋一(2020)『説明的文章の読解方略指導研究 - 条件的知識の育成に着目して - 』溪水社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 河野順子	4. 巻 551
2. 論文標題 国語科で育てる思考力・判断力と評価 思考力・判断力を育てる「批評読みとその交流」の学び, 国語科で育てる思考力・判断力と評価 思考力・判断力を育てる「批評読みとその交流」の学び	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本国語教育学会編『月刊国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 4, 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河野順子	4. 巻 1
2. 論文標題 「理論の実践化」から「実践の中の理論」へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会編集『国語科における理論と実践の統合』東洋館出版社	6. 最初と最後の頁 41, 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河野順子	4. 巻 1
2. 論文標題 「対話のある国語科授業づくり」「説明的文章のスペシャリストになろう! 小学校5年『ゆるやかにつながるインターネット』」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会編『対話のある授業づくり』	6. 最初と最後の頁 56-64, 41-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河野順子	4. 巻 64, 765
2. 論文標題 国語ー「主体的・対話的で深い学び」をデザインするー説明的文章の学習指導を例にー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育評価研究会『指導と評価』	6. 最初と最後の頁 6, 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 65, 772
2. 論文標題 続・説明文・意見文を書くことの指導(2)「批評読みとその交流」における「書くこと」の指導	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育評価研究会『指導と評価』	6. 最初と最後の頁 39, 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 819
2. 論文標題 提言「学びの質」を高め、深い学びに導く授業と評価の在り方 授業づくりの四つのポイント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育科学国語教育 明治図書	6. 最初と最後の頁 10, 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 1
2. 論文標題 「批評読みとその交流」の単元づくり コンピテンシーとしてのメタ認知の育成をめざして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本国語教育学会『第81回国語教育全国大会研究要項』	6. 最初と最後の頁 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 558
2. 論文標題 「<小学校>話す・聞く、書く指定討論 主体的・対話的で深い学びを実現する指導」.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本国語教育学会編『月刊国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 559
2. 論文標題 「批評読みとその交流」の単元づくり コンピテンシーとしてのメタ認知の育成をめざして」(小・中)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本国語教育学会編『月刊国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 1
2. 論文標題 考える力を育てる読書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 栃木県小学校教育研究会宇都宮支部学校図書館部会編集『生きる力をはぐくむ学校図書館 豊かな心を育み、自ら学ぶ力を高める学校図書館』	6. 最初と最後の頁 5, 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 820
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第1回 新学習指導要領の背景とその特徴」(鶴田清司)、『教育科学国語教育』 820、2018年 4月号、明治図書、pp.88-9	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 821
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第2回 コンピテンシーとは何か」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 1209
2. 論文標題 国語科の「見方・考え方」が鍛えられる授業とは～「見方・考え方」の有効性を実感できる授業づくり～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『学校教育』 広島大学附属小学校	6. 最初と最後の頁 88, 9 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 1
2. 論文標題 「ものの見方・考え方」を働かせることによる「深い学び」～西郷竹彦の「気のいい火山弾」の授業を中心に～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『重点領域研究報告書』 都留文科大学	6. 最初と最後の頁 6, 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 822
2. 論文標題 連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第3回 教科の本質とは何か～教科固有の「見方・考え方」～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』 明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 762
2. 論文標題 「学習の基盤となる論理的思考力・表現力を育てる」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『指導と評価』 日本教育評価研究会	6. 最初と最後の頁 12, 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 823
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第4回 「見方・考え方」の育成と「深い学び」～西郷竹彦の「気のいい火山弾」の授業～」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 1
2. 論文標題 「全国学力・学習状況調査の結果を授業の改善にどう生かすか～山梨県学力向上アドバイザーの経験から～」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国語教育における調査研究』全国大学国語教育学会編	6. 最初と最後の頁 60, 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 28
2. 論文標題 「メタ認知的知識としての学習用語 言語技術の真の習得・活用を図るために 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『言語技術教育』日本言語技術教育学会	6. 最初と最後の頁 35, 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 824
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第5回 先導的なコンピテンシー教育論～浜本純逸の学力論を中心に～」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 825
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第6回 コンピテンシーとしての論理的思考～根拠・理由・主張の3点セット～」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 826
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第7回 コンピテンシーとしての「類推」～「未知の状況にも対応できる」思考力のために～」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 827
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第8回 大学入学共通テスト試行問題の検討～「根拠」を問い直す」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 828
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第9回 コンピテンシーとしての「学びに向かう力、人間性等」とは何か」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 829
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第10回 「根拠・理由・主張の三点セット」の活用による深い学び」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 830
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第11回 「根拠・理由・主張の三点セット」の活用による深い学び(その2)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 831
2. 論文標題 「連載 教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり 第12回 教科の本質をふまえたコンピテンシーの育成のために」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』明治図書	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古賀洋一	4. 巻 84
2. 論文標題 「説明的文章の読みの指導における階層的な論証の理解 中学生への実験授業を通して」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会編『国語科教育』	6. 最初と最後の頁 31, 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古賀洋一	4. 巻 41, 3
2. 論文標題 「小学校説明的文章の『論理』の読解方略指導における条件的知識の学習可能性 高学年を中心に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教科教育学会編『日本教科教育学会誌』	6. 最初と最後の頁 1, 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古賀洋一	4. 巻 57
2. 論文標題 「説明的文章の読解方略の指導過程 階層的な論証の理解に焦点を当てて」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』	6. 最初と最後の頁 31, 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古賀洋一	4. 巻 58
2. 論文標題 「説明的文章の論証の批判的読みにおける『反証』への着目」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『島根県立大学松江キャンパス研究紀要』	6. 最初と最後の頁 51, 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細川太輔	4. 巻 15
2. 論文標題 議論評価サービスの変容を用いた話し合いによる子どもの自己評価の変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学国語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤瀬泰司	4. 巻 67
2. 論文標題 「自己責任論の相対化を図る社会科授業の開発健康格差問題を教材にして」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 47, 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 1
2. 論文標題 教員養成カリキュラムに関する一考察 - 「理論の実践化」から「実践の中の理論」へ -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 白百合女子大学初等教育学科紀要『保育・教育の実践と研究』	6. 最初と最後の頁 25 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 81
2. 論文標題 国語科におけるアクティブ・ラーニングの可能性と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会『国語科教育』	6. 最初と最後の頁 4 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 551
2. 論文標題 思考力・判断力を育てる「批評読みとその交流」の学び	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本国語教育学会『月刊国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 4 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 1
2. 論文標題 「理論の実践化」から「実践の中の理論」へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会『国語科における理論と実践の統合』	6. 最初と最後の頁 41 - 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 1
2. 論文標題 対話のある国語科授業づくり	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会『対話のある授業づくり』	6. 最初と最後の頁 41 - 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 10
2. 論文標題 説明的文章のスペシャリストになろう！ - 小学校5年「ゆるやかにつながるインターネット」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会『対話のある授業づくり』	6. 最初と最後の頁 56 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野順子	4. 巻 810
2. 論文標題 「主体的・対話的で深い学び」の実現	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 76 - 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野I順子	4. 巻 819
2. 論文標題 「学び」の質を高め、深い学びに導く授業と評価の在り方 授業づくり4つのポイント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育科学国語教育	6. 最初と最後の頁 10 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤瀬泰司・春田直紀・定松良彰・黒岩義史・小鉢泰平・相良眞由・中村俊樹・米満昇平	4. 巻 66
2. 論文標題 過去と現在の事象比較を取り入れた小学校歴史授業の開発 - 過去の社会の理解を通じた現代社会の理解をめざして -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 41 - 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細川太輔	4. 巻 69
2. 論文標題 説明ビデオ作成活動が資質・能力の3要素に与える影響とICTの役割	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 1 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 63
2. 論文標題 「すぐれた教師とは～教師の教養と授業力の関係～」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『教育展望』	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 755
2. 論文標題 国語科 論理的思考・判断力の評価と指導	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本教育教科研究会『指導と評価』	6. 最初と最後の頁 52 - 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 757
2. 論文標題 国語・数学 記述式問題 資料を読みとって論理的に表現する	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本教育教科研究会『指導と評価』	6. 最初と最後の頁 52 - 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴田清司	4. 巻 805
2. 論文標題 国語科新学習指導要領を評価する～「根拠」と「理由」を区別する～	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『教育科学国語教育』	6. 最初と最後の頁 38 - 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 鶴田清司
2. 発表標題 国語科教育における理論と実践の関係～文芸教育研究協議会(文芸研)を中心に～
3. 学会等名 日本教育方法学会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細川太輔
2. 発表標題 議論評価システムを用いた話し合いによる児童の自己評価
3. 学会等名 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村圭一 遠藤優介 清水美憲 長谷川淳一 細川太輔
2. 発表標題 学校教育における「発見・創造」の再考
3. 学会等名 日本教材学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤瀬泰司
2. 発表標題 「授業実践の論文化をめざして;よりよい事実の開発研究の場合」
3. 学会等名 全国社会科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤瀬泰司
2. 発表標題 「6 説明的文章」岩崎淳他編『言語活動中心国語概説－小学校教師を目指す人のために－』
3. 学会等名 熊本社会科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野順子
2. 発表標題 「批評読みとその交流」の単元づくり コンピテンシーとしてのメタ認知の育成をめざして
3. 学会等名 日本国語教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古賀洋一
2. 発表標題 「説明的文章指導研究の『現在』 Paul, R. の批判的思考研究を中心的観点として 」第5回
3. 学会等名 中国・北九州地区国語教育学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古賀洋一
2. 発表標題 「説明的文章の批判的読みにおける反証に着目する読み」
3. 学会等名 第9回九州国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古賀洋一・池田匡史
2. 発表標題 「説明的文章の批判的読みの指導における統合的理解」
3. 学会等名 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野順子
2. 発表標題 主体的・対話的で深い学びをどう創造するか - 話すこと・聞くこと教育の授業実践を通して -
3. 学会等名 日本国語教育学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤瀬泰司・黒岩義史・相良眞由・中村俊樹・米満昇平
2. 発表標題 過去と現在の事象比較を取り入れた小学校歴史授業の開発 - 過去の社会の理解を通じた現代社会の理解をめざして -
3. 学会等名 熊本県社会科教育学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細川太輔
2. 発表標題 調査研究の意義と役割 - 東京学芸大学「O E D C との共同による次世代対応型指導モデルの研究開発」の事例から -
3. 学会等名 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細川太輔
2. 発表標題 日本の国語科教育における教員養成と専門性発達
3. 学会等名 韓国国語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細川太輔・曹蓮・森頭子・中村和弘
2. 発表標題 国語科授業における資質・能力の相互作用分析 中学校の事例から
3. 学会等名 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴田清司
2. 発表標題 全国学力・学習状況調査の結果を授業の改善にどう生かすか～山梨県学力向上アドバイザーの経験から～
3. 学会等名 全国大学国語教育学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古賀洋一
2. 発表標題 説明的文章の読解方略における条件的知識の指導過程モデルの検証－中学生への実験授業を通して－
3. 学会等名 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 河野順子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 143
3. 書名 「6 説明的文章」岩崎淳他編『言語活動中心国語概説－小学校教師を目指す人のために－』pp.40-47 (全143頁)学文社	

1. 著者名 河野順子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 155
3. 書名 質の高い対話で深い学びを引き出す小学校国語科「批評読みとその交流」の授業づくり	

1. 著者名 樺山敏郎編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 281
3. 書名 平成29年改訂小学校教育課程実践講座	

1. 著者名 細川太輔・北川雅浩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 136
3. 書名 小学校国語科学び合いの授業で使える！「思考の可視化ツール」	

1. 著者名 鶴田清司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 図書文化	5. 総ページ数 102
3. 書名 論理的思考力・表現力を育てる三角ロジック～根拠・理由・主張の三点セット～	

1. 著者名 鶴田清司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 180
3. 書名 国語授業の改革 国語の授業で「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮下 孝広 (MIYASITA TAKAHIRO) (00190778)	白百合女子大学・人間総合学部・教授 (32627)	
研究分担者	古賀 洋一 (KOGA YOICHI) (00805062)	島根県立大学・人間文化学部・講師 (25201)	
研究分担者	椎橋 元貴 (椎橋げんき) (SIIBASI GENKI) (10788938)	白百合女子大学・人間総合学部・講師 (32627)	
研究分担者	目良 秋子 (MERA AKIKO) (20349145)	白百合女子大学・人間総合学部・准教授 (32627)	
研究分担者	鶴田 清司 (TSURUDA SEIJI) (30180061)	都留文科大学・教養学部・教授 (23501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤瀬 泰司 (FUJISE TAIJI) (30515599)	熊本大学・大学院教育学研究科・准教授 (17401)	
研究分担者	石沢 順子 (ISIZAWA JUNKO) (40310445)	白百合女子大学・人間総合学部・准教授 (32627)	
研究分担者	神永 典郎 (KAMINAGA NORIRO) (50586386)	白百合女子大学・人間総合学部・教授 (32627)	
研究分担者	細川 太輔 (HOSOKAWA DAISUKE) (70738228)	東京学芸大学・教育学部・准教授 (12604)	2021年1月末メンバーから外れた
研究分担者	中村 久美子(土橋久美子) (NAKAMURA KUMIKO) (70745760)	白百合女子大学・人間総合学部・准教授 (32627)	
研究分担者	山崎 浩隆 (YAMAZAKI HIROTAKE) (20555768)	熊本大学・教育学部・准教授 (17401)	2018年メンバーから外れた
研究分担者	緒方 信行 (OKATA NOBYUKI) (60535714)	熊本大学・教育学部・教授 (17401)	2018年メンバーから外れた

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	翁麗芳 (O REIHO)	國立臺北教育大學・幼兒與家庭教育學系・教授	2019年3月退職

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 台湾と日本の幼小連携研究 - 論理的思考力・表現力育成 -	開催年 2017年～2017年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------